

1 研究主題

発達段階に応じた体系的なキャリア教育の在り方 ～第6次～

2 2020年度の実施

視点

- 各教科等の学びが連続した学びとなるように、各教科等の学習内容の段階性や系統性等の「縦のつながり」を整理する。
- 各教科等の学びが深まるように、生活単元学習を軸として国語科及び算数科・数学科との学習内容の関連付け「横のつながり」を整理する。
- 子どもの学びにつながりをもたせるために、各教科等の関連付けに着目して単元計画を作成する。

実施したこと

- 段階性や系統性に留意した国語科及び算数科・数学科の年間指導計画を作成した後、国語科及び算数科・数学科、生活単元学習の関連を示す年間指導計画として整理し、年間指導計画の点検表を用いて段階性や系統性、関連について点検を行い、指導を展開した。
- 国語科及び算数科・数学科、生活単元学習の各単元の関連を確認できるように「単元関連図」を作成し、各単元の関連の点検表を用いて各教科等の関連について点検を行い、指導を展開した。

明らかになったこと

- 小学校・中学校共に、国語科及び算数科・数学科の年間指導計画を作成することで、どのような学習内容を積み上げていくのが明確になり、学びの系統性を意識して指導することができるようになった。また、小学校6年間、中学校3年間の見通しをもった指導が可能となり、児童生徒の実態に合った年間指導計画へ改善することができた。
- 各教科等の関連を視覚化した単元関連図は、複数の指導者が共通認識をもって指導するためのツールとして有効であることが認識された。
- 児童生徒のキャリア発達の状態をふまえて「個別のキャリア教育重点指導課題」を設定し、生活単元学習と教科・領域等を関連付けた「単元関連図」に基づいて体系的な指導を行うことで、児童生徒のキャリア発達が促進された。

今後の課題

- 知的障がいの学習上の特性をふまえて同時期に実施する教科・領域等の内容を関連付けたことにより、国語科及び算数科・数学科の学習時間が制限されてしまい、教科の学習内容を十分習得できなかった。そのうえで、教科で学習したことを生活単元学習で生かすことができない児童生徒がいたため、生活単元学習と教科の関連付けを図る際には、小中学校9年間を見通して、どのような資質・能力をどのように指導するかを検討したうえで、児童生徒の実態に即した実践に取り組む必要がある。